

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Duplicitous growth of infiltrative basal cell carcinoma. Analysis of clinically undetected tumor extent in a paired case-control study	
	論文の日本語タイトル	浸潤型基底細胞癌における潜在性増殖. 症例対照研究	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称	BCCCQ8-3	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (IV)	
	Pubmed ID	8646468	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Dermatologic surgery	
	雑誌 ID		
	巻	22	
	号	6	
	ページ	535-539	
	ISSN ナンバー	pISSN: 1076-0512 eISSN: 1524-4725	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
発行年月	1996		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Hendrix JD Jr	University of Virginia School of Medicine
	その他著者 1	Parlette HL	
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
その他著者 6			

一次研究の 8項目	目的	浸潤型基底細胞癌における臨床的に検出できない組織学的浸潤の大きさを、結節型と比較検討する	
	研究デザイン	症例対照研究	
	セッティング	米国の1大学病院	
	対象者	浸潤型基底細胞癌 139 例（初発 95 例、再発 44 例）と結節型基底細胞癌 139 例（初発 95 例、再発 44 例）	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず（3）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず（3）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず（22）	
	介入（要因曝露）	浸潤型基底細胞癌 139 例と、対照として部位、大きさ、再発回数、年齢、性、前治療をマッチさせた結節型基底細胞癌 139 例をコンピュータで選別	
	エンドポイント（アウトカム）	エンドポイント	区分
	1	完全切除までの Mohs 法のステージ数	1.主要 2.副次 3.その他（1）
	2	完全切除に必要な広さ	1.主要 2.副次 3.その他（1）
	3	完全切除に必要な深さ	1.主要 2.副次 3.その他（1）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	初発、再発に関わらず Mohs 法における完全切除に要したステージ数（ $p=0.0013$ ）、欠損の広さ（ $p=0.0005$ ）、深さ（ $p=0.0005$ ）のいずれも浸潤型基底細胞癌の方が結節型より大きかった。	
結論	浸潤型基底細胞癌は結節型に比べて、側方と深部方向のいずれにおいても subclinical extension が大きい。臨床医は浸潤型基底細胞癌を取り扱う際にはその点に留意する必要がある。		
備考			
レビューワー コメント	レビューワー氏名	竹之内辰也	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（IV） 著者らは今回は浸潤型（infiltrative type）をハイリスクの組織型として取り上げているが、別紙に同様の解析手法で微小結節型（micronodular type）と結節型の症例対照研究も報告している。基底細胞癌においては側方の subclinical extension について検討した研究は多いが、深部方向についての報告は少ない。今回の結果からは、Mohs surgery の完全切除に要した欠損が皮下脂肪織内で留まったのは結節型で 78%、浸潤型では 51%であり、基底細胞癌における切除深度の設定に関して一定の示唆は与えている。	